

学校法人栗原学園
理事長 谷澤 満 殿

やまた幼稚園
園長 栗原 弥生

2018年度の幼稚園の教育活動その他の運営の状況について自己評価を実施いたしましたので下記の通りご報告いたします。

記

1 評価項目

2018年度においては、重点目標及び目標達成のための遂行方法を次のように設定しました。

	客観数値基準	遂行方法
幼稚園	<p>Cultivate creative people who can think, act and leverage globally. 国際水準で考え、世界のどこでも活動ができ、世界に展開させることのできる創造的な人財、および To express one's own thoughts to people from different backgrounds 異なる文化的背景をもつ人にも自分の考えを表現できる人財の育成をすることにより、年少の入園希望者を72名以上獲得する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 写真と文章による毎日の情報発信 ・ 入園説明会の実施（毎週） ・ ブログでの配信、ビタミンママ等の雑誌への掲載、ムービーの作成、エリックさん座談会の実施 ・ グリーンライン車内アナウンスによる広報 ・ IB候補校申請 ・ 日英二か国語によるIBプランナーの作成 ・ 職員の英語力向上のためのケンブリッジ英検受験 ・ 都筑公会堂での発表会 ・ 数的ワークの実践
年少	<p>CS調査*「園での子どもの様子がよくわかる」の実現度の質問項目において、そう思うが60% 「英語も身につけられる幼稚園や保育園を探しているけれど、良いところを知らないか」と尋ねられた場合、当園を薦めたいか（以下、推薦意向）の質問項目において、そう思うが60%</p>	<p>ポートフォリオの充実 コーナー遊びの充実（選んで遊ぶ）</p>
年中	<p>CS調査「園での子どもの様子がよくわかる」の実現度の質問項目において、そう思うが60% 推薦意向の質問項目において、そう思うが60%</p>	<p>ハグノートで英語レッスンの様子を配信 廃材遊びができる室内環境の整備</p>

	客観数値基準	遂行方法
年長	CS調査「園での子どもの様子がよくわかる」の実現度の質問項目において、そう思うが60% 推薦意向の質問項目において、そう思うが英語クラス60%、日本語クラスは「どちらかといえばそう思う」を含めて60%	振り返り10秒ワークの実践

*Customer Satisfactionの略。外部委託先からの報告書の語法に倣っている。保護者アンケートと同義。

2 自己評価

2018年度の自己評価に関連する活動の実施状況は次の通りです。

	自己評価に関連する活動	保護者アンケート(*2)
2018年 4月	上期目標項目の設定 人事面談 上期キャリアアップシート(*1)の作成	
5月	遂行方法について月次進捗管理	保護者アンケート項目の設計
6月	遂行方法について月次進捗管理 保育参観	
7月	遂行方法について月次進捗管理	
8月	遂行方法について月次進捗管理	
9月	遂行方法について月次進捗管理	保護者アンケート実施
10月	上期キャリアアップシート提出 上期ワークショップ(*3) 下期目標項目の設定 人事面談 下期キャリアアップシートの作成	分析・評価
11月	遂行方法について月次進捗管理	
12月	遂行方法について月次進捗管理	
2019年 1月	遂行方法について月次進捗管理	
2月	遂行方法について月次進捗管理 保育参観	保護者アンケート実施
3月	遂行方法について月次進捗管理	保護者アンケート実施 分析・評価 改善の方策に関するワークショップ
4月	下期キャリアアップシート提出 下期ワークショップ(*3)	

自己評価に関連する活動		保護者アンケート(*2)
5月	設置者へ報告の提出(*4)	

- *1 幼稚園全体、学年ごとの目標が設定された上で、各人毎の目標項目および遂行方法が設定される。目標の難易度、達成などは、人事考課における参照指標として用いられる。
- *2 質問項目の設計は外部専門機関を交えて行い、分析は当園で行う。
- *3 CSの調査報告書を踏まえて、今後の改善方策について検討を行う。
- *4 理事会および評議員会において提出する事業報告書の添付書類となる。

3 評価結果

上記1の目標項目の結果は次の通りです。

		客観数値基準		
		目標	上期	下期
幼稚園	入園者数	72名	76名	
年少	自分で考え行動する子		36.6%	48.7%
	園での子どもの様子がよくわかる		65.9%	69.2%
	推薦意向	60%	48.8%	46.2%
年中	自分で考え行動する子		27.1%	29.2%
	園での子どもの様子がよくわかる		56.3%	43.8%
	推薦意向	60%	45.8%	43.8%
年長	自分で考え行動する子		27.2%	32.7%
	園での子どもの様子がよくわかる		43%	49.5%
	推薦意向（英語クラス）	60%	45.9%	46.7%
	推薦意向（日本語クラス） どちらかといえばを含め	60%	54%	61.9%

4 改善方策

4.1 評価項目の設定

2016年度までは「自分で考え行動する子」の実現度と保護者からの総合評価に有意な相関が見られたため、2017年度においても「自分で考え行動する子」の実現度を主要な指標として利用した。しかし、最終的に推薦意向と強い相関が見られたのは、「自分で考え行動する子」ではなく「園での子どもの様子がよくわかる」の項目だったため、2018年度は「園での子どもの様子がよくわかる」を主な指標とし、「自分で考え行動する子」は参考指標にとどめることになった。

また、発達指標および体力測定の結果等も指標として導入した。

4.2 自分で考え行動する子の実現度を向上させる方策

4.2.1 情報発信

「園での子どもの様子がよくわかる」と保護者に評価していただくために重点を置いたのは、写真を使って短い文章で説明することである。これは、視覚から物事を理解する若い世代の特徴に配慮している。ブログやハグノートでの情報発信により、子どもたちの活動が目で見えてわかるようになった。保護者からは概ね好評を得ている。ポートフォリオが廃止されたことによる保護者からのネガティブな意見に対しては、ハグノートの中で個人的な成長を伝えることで対応してきた。

保護者面談では発達指標と体力測定の結果を使い、写真や動画を見ながら、視覚的に理解が深まるように工夫した。

また公立小学校の先生を招いて講演会と座談会を行い、幼稚園で大切にしたいこと、小学校に入るまでに身につけておきたいことなどについて、保護者が学ぶ機会を作った。

4.2.2 自分で考え行動する指導計画の立案と実施

クラス全員が同じことを同じようにするのではなく、一人ひとりの裁量に任せたり、活動そのものを子どもたちからのアイデアで組み立てたり、子どもが主体的に考え行動する機会を増やした。年少児はコーナー遊びを充実させてそれぞれがしたい遊びを選べるようにしたり、年中児は家から色々な素材を持ってきてやりたいことを自由にできる環境を作ったりした。また年長児は活動自体（栽培、染色など）は統一したが、その内容は子どもたちの話し合いで決定するものが多いというように、発達段階に合わせて学年ごとに工夫をしていた。

発表会に向けての期間は、大道具小道具などの制作、セリフや動きなども子どもたちのアイデアを生かして取り組んだ。子ども一人ひとりが良い面を発揮させ、お互いが助け合い認め合いながら過ごすことができ、子どもたちが大きく成長していく姿が見られた。

以上